



ドリアン湾ダモイ岬

南緯64度49分 西経63度30分 ウインケ島

主な特徴

- 英国およびアルゼンチンの歴史的な小屋
- ゼンツーペンギンのコロニー
- 氷河の景観



概要

地形	ダモイ岬は、南極半島ウインケ島西岸にある岩の多い岬である。
動物相	繁殖が確認されている種：ゼンツーペンギン(<i>Pygoscelis papua</i>)、ミナミオオセグロカモメ(<i>Larus dominicanus</i>)、オオトウゾクカモメ (<i>Catharacta skua</i>)、ナンキョクアジサシ(<i>Sterna vittata</i>)。ウェッデルアザラシ(<i>Leptonychotes weddellii</i>)はよく上陸する。カニクイアザラシ (<i>Lobodon carcinophagus</i>)とヒョウアザラシ(<i>Hydrurga leptonyx</i>)が沖合で見られる。ナンキョクオットセイ(<i>Arctocephalus gazella</i>)がシーズンの終わりに現れる。
植物相(植生)	一般的なナンキョクカワノリ(<i>Prasiola crispa</i>)に加え、ダモイ岬からは、地衣類5種とコケ類3種が報告されている。
その他	ダモイ小屋は、第84南極史跡記念物に指定されている。この小屋はドリアン湾の海岸線から約100mのところであり、1975年11月に英国南極観測局 (BAS) が建設した。海水状態が不良で船船による出入りができないときに、小屋の上方の氷河にある滑走路から空路でロゼラ研究基地に向かうBAS職員と荷物の中継基地として使用された。BASが最後に使用したのは1993年である。パヒア・ドリアン小屋は1953年2月23日にアルゼンチン海軍が建設した。英国のダモイ小屋のすぐ近くにあり、広さはおよそ12㎡である。小屋は緊急避難所として使用されている。

訪問者の影響

既知の影響	なし。
潜在的影響	火災。小規模な燃料漏れ。野生生物の攪乱と植生の踏みつけ。

上陸要件

船舶*	乗客500名以下の船舶(次の「訪問者」の項も参照)*。一度に1隻の船舶に限る。1日あたり(午前0時から翌午前0時まで)3隻以内で、そのうち乗客200名を超える船舶は1隻までとする。
訪問者	探検ガイドとリーダーを除き、常に上陸は一度に100名以内。ダモイ小屋内部への訪問者数は、常に10名以内に限る**。 ダモイ小屋は、英国が第84南極史跡記念物に提案した。この小屋への訪問は、当事国から事前に許可を得た場合のみ可能である。訪問に先立ち、本地区を管理する当事国に通知しなければならない。アルゼンチンのパヒア・ドリアン小屋は緊急時のみ立ち入ることができる。

訪問地区

上陸地区	ドリアン湾の小屋のすぐ近くの地点が好ましい。
閉鎖地区	なし。
ガイド付き徒歩地区	なし。
自由散策地区	訪問者は監視の下、自由散策が許されている(「注意事項」の項も参照)。

訪問者の行動規範

上陸後の行動	訪問者は南極訪問者ガイドラインに従って行動すること。 小屋での宿泊は禁止されている。緊急時を除き、ダモイ小屋への訪問は教育目的に限られ、他のいかなる目的にも利用してはならない。 小屋の窓全てに簡単に取り外しができるシャッターが取り付けられている。それらは、シーズン始めの最初の訪問者が取り外した後内部に保管し、ポート・ロックロイチームに報告する。 工作物やその他のものに触れたり、持ちだしたりしてはならない。椅子などの家具に座ったり、テーブルや作業台に物を置いたりしないこと。岩や建物に落書きをしてはならない。 建物に入る前に、長靴や上着から雪や砂を払うこと。リュックサックや大きな鞆は小屋の外に置いておくこと。 訪問後、砂利、泥、雪を掃いておくこと。 小屋の中や周囲での喫煙のほか、ろうそく、マッチ、コンロの使用は禁じられている。 訪問時には、ダモイ小屋の中にある訪問者簿に記録を残すこと。ダモイ小屋に損傷を与えた場合には、本地区の管理を担当する当事国である英国に、探検リーダーがその旨を報告しなければならない。パヒア・ドリアン小屋への損傷については、アルゼンチンに報告する。 訪問者は出発の際、基地を清潔にし、乾燥させた上で、安全かつ確実に閉鎖して立ち去らなければならない。 基地に何も忘れ物がないことを確認し、基地を去る前に、野生生物への影響や自然の価値を損ねることを防ぐため、テントやその他の目的のために雪に開けた穴を閉じること。
--------	--

*：ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。

**：訪問者は自らの責任で基地を訪問すること。英国政府機関は、個人の怪我や財産の損傷に対して責任を負わないものとする。



ドリアン湾ダモイ岬

南緯64度49分 西経63度30分 ウインケ島

注意事項

ボートの操縦者はドリアン湾の入り口の岩に注意すること。
 砕氷がドリアン湾内に急に押し寄せ、本地区への出入りができなくなることがある。海岸でキャンプを張って泊まるときは、その間ずっと、氷の見張番を置かなければならない。
 Jabet Peakとダモイ岬の間の氷河には割れ目があり危険である。
 十分な経験と訓練を積み、適切な装備（ロープを付けるなど）をした者以外立ち入ってはならない。
 小屋にはアスベストを含んだ物がある可能性がある。

採択：2010年
 最終改訂：2013年5月



第84南極史跡記念物ダモイ小屋 (英国)



推奨上陸地区であるドリアン湾の海岸線。上に見えるのがアルゼンチンの小屋と英国の小屋。



第84南極史跡記念物ダモイ小屋の内部

